

日本気象学会昭和54年秋季大会

福岡管区気象研究会

会期：昭和54年10月24日（水），25日（木），26日（金）

会場：電気ビル（福岡市中央区渡辺通り2-1-82）

目 次

| | |
|-----------|---------|
| 大会行事予定表 | 569 |
| 会場と宿舎案内図 | 570 |
| 研究発表内容一覧表 | 571 |
| シンポジウム内容 | 571 |
| 研究発表題目 | 572～578 |

大会行事予定

1. 会場：電気ビル（Tel. 092-781-0681）
第1会場（地下2F No. 8 会議室）
第2会場（同 No. 7 会議室）
第3会場（同 No. 6 会議室（24日），No. 5 会議室（25，26日））
2. 会期：10月24日（水），25日（木），26日（金）
3. 行事：

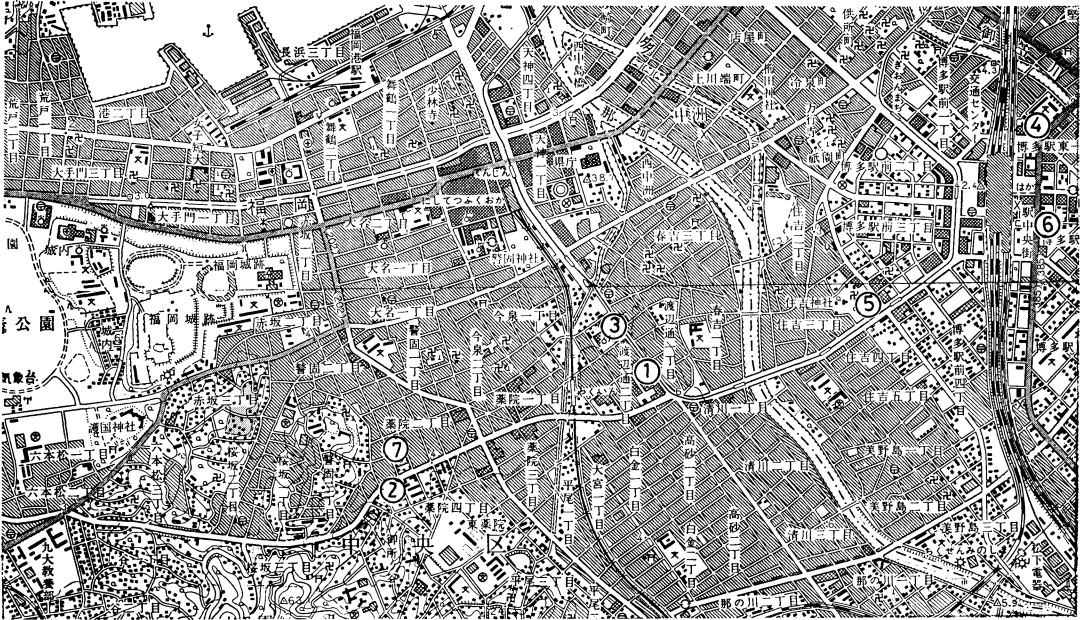
| | |
|--------------------|----------------------|
| 大会（研究発表）（第1，2，3会場） | 10月24日（水）09：00～12：30 |
| 〃 | 〃 13：30～17：30 |

| | |
|----------------------------|----------------------|
| 大会（研究発表）（第1，2，3会場） | 10月25日（木）09：00～12：30 |
| 理事長あいさつ，日本気象学会奨励金贈呈式（第1会場） | 14：00～14：30 |
| シンポジウム（第1会場） | 14：45～17：00 |
| 懇親会（電気ビル別館6Fホール） | 17：30～ |

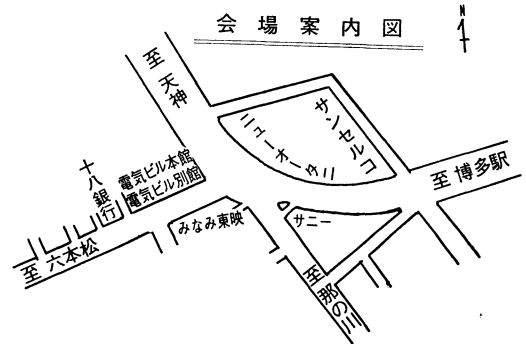
| | |
|--------------------|----------------------|
| 大会（研究発表）（第1，2，3会場） | 10月26日（金）09：00～12：30 |
| 〃 | 〃 13：30～17：00 |

大会委員長 竹内清秀

秋季大会会場と宿舍案内



| 地図番号 | 名称 |
|------|--------------|
| ① | 電気ビル |
| ② | (連) はかた会館 |
| ③ | セントラルホテルフクオカ |
| ④ | 博多グリーンホテル |
| ⑤ | 法華クラブ福岡店 |
| ⑥ | 博多第一ホテル |
| ⑦ | ビジネス平和台ホテル別館 |

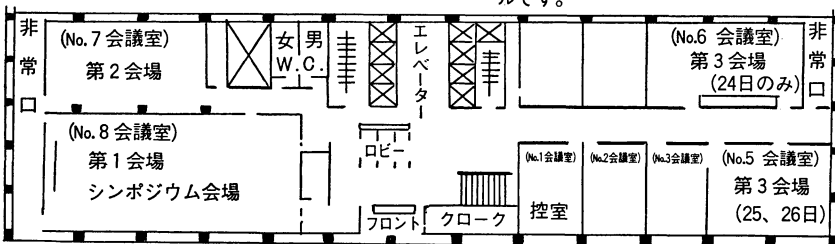


大会会場への交通

西鉄バス 博多駅前乗場→渡辺通1丁目下車すぐ前 (約7分) (系統番号 ⑨⑩⑮⑯⑰⑱⑳)。福岡空港からは市内連絡バスで博多駅下車乗り換え。

電気ビル本館地下2階見取図

※懇親会会場は電気ビル別館6階ホールです。



昭和54年秋季大会

(): 講演番号, — — : 座長

| | | 第 1 会 場 | 第 2 会 場 | 第 3 会 場 |
|-------------------|----------------------------|---------------------------------|--|---|
| 10月 24日 (水) | 09:00~12:30 | 境界層 I (101~112) —藤谷徳之助— | 総観気象・中小規模現象 (201~214) —黒木義秋— | 放 射 (301~314) —浅野正二— |
| | 13:30~17:30 | 境界層 II (113~124) —根本 茂— | 総観気象・中小規模現象 (215~228) —鈴木宗徳— | エーロゾル (315~329) —北川信一郎— |
| 10月 25日 (木) | 09:00~12:30 | 境界層 III (125~138) —安田延寿— | 熱帯気象 (229~237) —新田 勲— 高層大気 (238~243) —伊藤久徳— | 雲物理 (330~344) —梶川正弘— |
| | 14:00~14:30 14:45~17:00 | 理事長あいさつ, 日本気象学会奨励金贈呈式 シンポジウム | | |
| 10月 26日 (金) | 09:00~12:30 | 局地循環 (139~151) —荒川正— | 大気大循環 (244~250) —荒井 康— 気 候 (251~257) —星合 誠— | 大気電気 (345~348) —菊地勝弘— 応用気象 (349~358) —元田雄四郎— |
| | 13:30~17:00 | 大気汚染 (152~163) —千秋鋭夫— | 力学・モデル (258~268) —宇加治一雄— | 測器・観測手法 (259~372) —水間満郎— |

注) 大会参加費 会員 500円, 学生会員 300円, 一般 1,000円

シンポジウム「流体を使う室内実験による大気現象の研究」

1. 日時 大会第2日(25日)
2. 会場 第1会場
3. 座長 坂上 務(九大)
4. 話題提供者
 1. 気象学における流体実験の意味 木村竜二(東大・海洋研)
 2. 回転流体中の傾圧不安定波 守田 治(九大・理)
 3. 風洞実験—流れのパターン及び貫入性対流— 伊藤昭三(大阪府大・工)

講演発表者へのお願い

1. スライドのマムントに番号をつけること.
2. スライドの上下を揃え, 分かるようにすること.
3. スライドの標準枚数は6~8枚です.
4. 持ち時間(約15分)を超過したときは中止していただくことがあります.

研究発表題目

大会第1日(10月24日)9時00分~12時30分

第1会場 境界層 I

座長 藤谷 徳之助

101. 横山長之・林 正康・山本 晋(公資研):市街地と郊外における大気境界層の乱流構造の測定(I)
102. 岩谷祥美・塩谷正雄・山田信夫(日大・生産工):高層ビル周辺の風とその乱れ
103. 北岡龍海(宇宙開発事業団):高層風観測から抽出された屋久島風下の気流の乱れについて
104. 近藤純正・萩野谷成徳(東北大・理)・千葉 修(高科大・理):接地境界層の発達の研究(I)
105. 山本 晋・横山長之(公資研)・長坂光高(東海大・理):安定大気境界層の厚さおよび気温・風速分布の時間変化について
106. 笹野泰弘・清水 浩・竹内延夫・奥田典夫(国立公害研):大気境界層内のエアロゾル濃度分布の時間・空間変動
107. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理):大気下層における乱流統計量の観測(II)
108. 米谷俊彦(岡山大・農生研):植物群落上の乱流特性について(IX)
109. 白澤邦男(北大・低温研・海洋):流氷野におよぼす風の応力測定III
110. 前野紀一・荒岡邦明・小林俊一・金田安弘(北大・低温研):風と流動状態の雪との相互作用
111. 金田安弘・前野紀一・荒岡邦明(北大・低温研):吹雪における熱伝達について
112. 岩谷祥美(日大・生産工):時間的,空間的に平均された強風の変動成分の性質

第2会場 総観気象・中小規模現象

座長 黒木 義秋

201. 青木 孝・本多君子(気研・予報):台風経路の統計的予測
202. 青木 孝(気研・予報):熱雷の判別解析による予測
203. 武田喬男・夏木尚平(名大・水圏研):NIMBUS-5マイクロ波によるliquid waterの評価(AMTEX領域を対象にして)
304. 鳥越 準・上野 充(鹿児島地台):鹿児島県の異常乾燥の例

205. 小沢 正・内山良子(気研・予報):日降雪量の統計的解析(IV)
206. 秋山孝子(気研):降水分布型別にみた総観場の特徴
207. 岡本俊雄(気象大):収束雲による大雪解析(主に1978年2月上旬の大雪について)
208. 八木正允・内山徳栄(気研)・阿部勝宏(衛星セ):冬期日本海で見られたtransverseモードの雲列の解析(II)
209. 穂積邦彦・孫野長治(北大・理):日本海収束帯の雲の航空機写真観測
210. 柳沢嘉親(川口工業高校)・孫野長治(北大・理):孤立峰(孤島)後方の雲パターンードライアイス霧による室内実験一
211. 二宮洗三(気象庁・電計):梅雨前線帯と北半球の前線帯
212. 吉住禎夫(気研・予報):梅雨前線帯の下層ジェットの発達
213. 渡辺 勉(福岡管区):対流雲と気象要素との関係
214. 山口栄次(福岡管区):1978年6月10日から11日にかけての北部九州の雨

第3会場 放射

座長 浅野 正二

301. 箕浦 宏・長屋勝博・岩坂泰信・小野 晃・吉澤宣之(名大・水圏研)・石坂重次(気象庁・衛星セ):黄砂現象とその大気光学的影響一太陽放射光に対する影響一
302. 小林隆久・矢野 直(気研・応用):Si detectorと干渉フィルターを用いたSunphotometerについて
303. 高島 勉・高山陽三・鯉沼正一(気研・衛星):衛星観測による3.9 μ m窓領域の利用について(そのII)
304. 荒生公雄・近藤 功(長崎大・教育):混濁大気におけるcircum solar radiation
305. 浅野正二(東北大・理):ランダムに方位した回転楕円体粒子の光散乱特性
306. 佐藤隆夫(長崎大)第n次散乱光における位相関数(VI)

307. 佐藤隆夫(長崎大): 第 n 次散乱光における位相関数(終)
308. 中澤高清・田中正之(東北大・理): 一酸化炭素の半幅値と線強度一低温下における測定一
309. 中川清隆(金沢大・教育): 稚内・輪島・館野・鹿兒島の大気境界層長波放射収支の年変化
310. 近藤純正・内山明博(東北大・理): Yamamoto の放射図に対する窓領域の補正(Surface downward flux. について)
311. 田中正之・郭 宗欽(東北大・理): 長波放射計算スキームの改良
312. 谷貝 勇(気研・予報): GCM のための放射モデル テスト (I)
313. 田中正之・中澤高清・青木周司(東北大・理): 大気中の二酸化炭素の測定(観測システムの試作と地上観測について)
314. 田中正之・中澤高清・青木周司(東北大・理): 大気中の二酸化炭素濃度の測定一航空機による観測

大会第 1 日 (10月24日) 13時30分~17時30分

第 1 会場 境界層 II

座長 根本 茂

113. 藤田敏夫(気研・予報): 波面上の風速分布について
114. 伊藤昭三(大阪府大・工): 大気乱流拡散と乱流エネルギー消散時間スケール
115. 守田 治(九大・理): 水平シアのあるエクマン境界層流の不安定性
116. 千葉 修(高知大・理): 接地層において風速鉛直成分の尖度が 3.0 より大きくなることの論証
117. 近藤純正・佐藤 威・増田幸一(東北大・理): カルマン常数の決定 (1)一超音波風速計検定と野外観測結果の比較一
118. 加藤真規子(お茶大): 乱流拡散におよぼす温度成層の影響 (IV)
119. 吉野正敏・河村 武・田宮兵衛・林 陽生(筑波大)・竹内秀子(筑波大・院)・花房龍男(気研): 筑波大学に設置された成層風洞について
120. 根本 茂(お茶大・理): 高さの異なる円弧状二次元模型風下の流れの相似性について
121. 菊地時夫(高知大・理): 地ふぶきの風洞実験(III)
122. 池田耕一(国立公衆衛生院)・小柳正弥(本文研究所): 模型周辺気流の水平収束に関する風洞実験
123. 北林興二・横山長之(公資研): 対流境界層の風洞実験 (第 3 報)
124. 吉門 洋・横山長之・北林興二(公資研): 下面から加熱される安定成層流の水路実験 (II)

第 2 会場 総観気象・中小規模現象

座長 鈴木 宗徳

215. 泉 幸治(宮崎地台): 1979年7月17日九州南部の大雨一アメダスによる強雨域の解析

216. 榊原 均(気研・予報): 非常に背の低い雲から発生した豪雨
217. 内田英治(気研)・立花良三(気象庁)・多部一朗・大塚和之(帝都高速度交通営団): 東西線列車転覆に関するたつ巻のモデル
218. 猪川元興(気研・予報)・加藤一靖・中島 忍(衛星セ): メソスケール帯状降雨帯に対応した, GMS 赤外面像の「にんじん」状雲パターンとその時間変化
219. 柴田清孝(函館海台): スコールラインの解析一1979年7月27日
220. 牧原康隆・立花房男・井田利規(福岡管区): アメダス資料によるエコー強度の検証について
221. 山口勝輔・吉田作松(気象協会・研): AMeDAS 資料による雨域移動の検討
222. 椎野純一(気研・台風)・青柳二郎(気研・衛星): 積雲における雨水の発達とエントレメントについて (3次元レーダエコー解析)
223. 阿波加 純・林 理三雄・手代木 扶・畚野信義(電波研)・田中 浩(名大): 電波研究所鹿島支所の降雨レーダシステム
224. 中村健治・藤田正晴・篠塚 隆・井原俊夫・古濱洋治(電波研): ドップラーレーダによる降雨の観測
225. 野口晉孝(気象庁・図書)・中嶋 隆(東京管区): 積雲モデルと物理過程
226. 今 久(北大・理): ステレオ写真法によって観測された晴天積雲と数値計算の比較(その 2)
227. 後町幸雄(京大・防災研): 鈴鹿山脈周辺の大雨の特性 (3)
228. 近野好文・菊地勝弘(北大・理): 北海道胆振地方

の山岳性降雨

第3会場 エーロゾル 座長 北川 信一郎

315. 岡田菊夫(名大・水圏研):都市大気中の sulfate を含むエーロゾルの粒径分布
316. 岡田菊夫・武田喬男・村林 成(名大・水圏研):都市およびその周辺におけるエーロゾルの垂直輸送(2)
317. 孫野長治・遠藤辰雄(北大・理):札幌市上空のエーロゾル分布の三次元観測
318. 石坂 隆(名大・水圏研):中部圏における雲核の空間分布とその特性
319. 北川信一郎・高橋忠司(埼玉大)・池上三和子・金沢五寿雄・三崎方郎(気研)・中谷 茂(電総研)・関川公成・増田純夫・望月 定(東理大・理)・首藤克彦・児島 紘(東理大・理工)・角田智良(環境アセスメントシステム):大都市およびその周辺地域におけるエーロゾルの分布と変動の研究(第7報)
320. 増田 剛(北大・環境)・遠藤辰雄(北大・理):札幌市における気体-粒子転換に関する測定
321. 太田幸雄(北大・工):3成分系気相からの均質核形成

322. 伊藤朋之(気研・物理):南極昭和基地で観測されるエアロゾル核の急増現象について
323. 伊藤朋之(気研・物理):南極昭和基地で採取したエーロゾル粒子の電子顕微鏡による観察
324. 伊藤朋之(気研・物理)・矢野 直・小林隆久・小出 孝(気研・応用)・桂川秀嗣(東邦大・教養)・戸村健児(立教・原研):南極昭和基地における大粒子エーロゾルの放射化分析
325. 岩井邦中(信州大・教):南極・昭和基地におけるエーロゾルの観測(3)—X線解析による物質の同定—
326. 池上宏一・樋口敬二・小野 晃(名大・水圏研):ネパールヒマラヤ上空のエーロゾル
327. 長屋勝博・岩坂泰信・岡田菊夫(名大・水圏研):2波長ライダーによる下部対流圏のエーロゾル粒径分布決定法(2)—飛行機との同時観測の結果について—
328. 岩坂泰信・小林愛樹智(名大・水圏研):成層圏エーロゾル粒径分布の高度変化から見た Condensation および Evaporation Rate
329. 小林愛樹智・岩坂泰信(名大・水圏研):成層圏エーロゾル層の形成(2)

大会第2日(10月25日)9時00分~12時30分

第1会場 境界層 III 座長 安田 延寿

125. 内藤恵吉・田端 功・伴野 登・高橋克己(気研・衛星):超高層タワー観測による強風鉛直分布
126. 荒生公雄(長崎大・教育)・田畑七郎(長崎海台)・堤 俊明(長崎保健所)・八並 誠(長崎県環境部)・内堀吉生(長崎市環境保全部):長崎市稲佐山における逆転層の観測
127. 蒲生 稔・山本 晋・横山長之・吉門 洋(公資研):海陸2境界面上に発達する内部境界層の飛行機観測(その8)
128. 森 征洋(香川大・教育)・光田 寧(京大・防災研):Surface Geostrophic Wind と実測風との対応について
129. 林 正康・横山長之(公資研)・小堀泰宏(海上電機):ソーダによる大気境界層の観測その5—PLL付ドップラ変移解析装置—
130. 西宮 昌・赤井幸夫(電力中研):音波探査による

下層大気風の観測

131. 赤井幸夫・西宮 昌(電力中研):ソーダにより観測された特異エコーについて
132. 福島 圓・秋田錦一郎・増田悦久(電波研):ラス・レーダ(電波音波共用探査装置)の開発研究(第2報)
133. 藤谷徳之助(気研・物理)・塚本 修(京大・防災研):熱帯海洋上における乱流輸送過程の研究(MONEX)(1)
134. 近藤純正・佐藤 威(東北大・理):西太平洋の海面熱収支—MONEX 第2報
135. 蒲生 稔・山本 晋・吉門 洋・林 正康・横山長之(公資研):赤道海域における係留気球観測(MONEX)
136. 山本 晋・蒲生 稔・吉門 洋(公資研):熱帯海域における赤外放射温度計による気温鉛直分布の観測

137. 安田延寿(気研):海上における水蒸気変動量の観測
 138. 新田 勅・蘇 鮮燮(東大・理):AMTEX '75における運動量収支と積雲の役割

第2会場 熱帯気象 座長 新田 勅

229. 新田 勅(東大・理)・村上勝人(気研・台風):MONEX '79で観測された擾乱の構造と生成機構
 230. 井沢龍夫・井上豊志郎(気研・台風):Winter MONEX 期間に熱帯太平洋に発生した Twin Cyclone —主として雲移動ベクトルの解析を中心に—
 231. 村上勝人(気研・台風):Summer MONEX 期間中の大気の東西断面
 232. 安成哲三(京大・東南アジア研):アジアの夏季モンスーンにみられる長周期変動
 233. 藤原滋水(気研)・中沢哲夫(東大・理):1978年7月の西太平洋における風の平均場
 234. 小柴 厚(福岡管区):ゾンデ資料からみた台風の熱的構造
 235. I. Subbaramayya・藤原滋水(気研):西部北太平洋における台風内の地上最大風速と中心気圧との関係
 236. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報):熱帯対流圏上部と成層圏下部の等圧面高度の解析
 237. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報):衛星雲風ベクトルと高層風データのスペクトル解析による比較
高層大気 座長 伊藤久徳
 238. 伊藤久徳(和歌山大・教育):プラネタリー波の振幅増大についての解析
 239. 川平浩二(京大・理):プラネタリー波の全球構造(Ⅱ)
 240. 川平浩二(京大・理):プラネタリー波によるオゾン輸送モデル
 241. 福山 薫(京大・理, Rice University):アレジボ IS レーダーによる中間圏の観測(速報)
 242. 廣田 勇(京大・理):中間圏赤道波の季節変動

243. 廣田 勇(京大・理):TIROS-N SSU データによる成層圏循環の解析例

第3会場 雲物理 座長 梶川正弘

330. 太田幸雄・大喜多敏一(北大・工)・加藤千明(住友電工):雲水の酸性化機構についての数値計算
 331. 大谷 健・小野 晃(名大・水圏研):大気中の硫酸塩を含む粒子の雲核としての機能(Ⅱ)
 332. 武田喬男・原田奈遠美(名大・水圏研):エアロゾルの物質構成が雲の微細構造におよぼす効果(数値計算)
 333. 石坂 隆・大和政彦・三田昭吉・小野 晃(名大・水圏研):航空機搭載雲粒濃度測定装置とこれを用いて得られた二, 三の観測結果
 334. 桜井兼六(北教大・旭川)・T. OHTAKE(アラスカ大):アラスカで観測された凍結水滴
 335. 菊地勝弘・佐藤 昇(北大・理):南極域における降水粒子の性質(その1)
 336. 小林禎作・古川義純(北大・低温研):氷晶の平衡形について
 337. 八木鶴平・上田 博(国立防災センター):長岡における降雪粒子の粒度分布の観測(Ⅱ)
 338. 上田 博・八木鶴平(国立防災センター):長岡における雪片の落下速度の測定とその粒度分布計算への適用について
 339. 梶川正弘(秋田大・教育):秋田県における雹について, I (1979年5月に観測された雹粒)
 340. 佐粧純男・松尾敬世(気研・物理):雪片の落下速度に関する確率分布関数について
 341. 松尾敬世・佐粧純男(気研・物理):融雪層中における雪片の融解速度
 342. 横山辰夫・田中 浩(名大・水圏研)・中村健治・阿波加 純(電波研・鹿島):2波長レーダーを用いた融解層の観測
 343. 今井俊男(岩見沢測):降雪による直接洗滌効果の機構について(Rain-out)
 344. 坪谷成行・菊地勝弘(北大・理):降水粒子の電気的性質について

大会第3日(10月26日)9時00分~12時30分

第1会場 局地循環 座長 荒川正一

139. 中原好幸(宮崎地台):宮崎県の高陸風

140. 楠田 信・阿部信男(大分高専):大分市における夏季の高陸風による発散・渦度の分布(その1)

141. 吉門 洋(公資研):海陸風の発生と気圧配置の関係(Ⅲ)
142. 原田 朗(気研・応用):関東地方における夜間の低気圧性小じょう乱の解析
143. 大河内康正(八代高専):山岳の存在する場合の海陸風に対する一般風の影響
144. 萬納寺信崇(東大・理):山谷風の数值実験
145. 菊地幸雄(気研・応用)・荒川正一・白崎航一(気象大)・木村富士男(気研・応用)・長野美文(環境庁):関東地方の局地風系におよぼす一般風の影響(数值シュミレーション)
146. 石島 英(琉大)・M. Estoque(マイアミ大):島による気流擾乱に関する数值シュミレーション Part(1)
147. 石島 英(琉大)・M. Estoque(マイアミ大):島による気流擾乱に関する数值シュミレーション Part(2)
148. 佐橋 謙(岡山大・教育):直交曲線座標とスペクトル法による海陸風の数值モデル
149. 山崎孝治・谷貝 勇(気研・予報):陸地上における大気境界層の日変化のシュミレーション
150. 米谷恒春(国立防災センター):地表の高温域が引き起こした局地循環による大気成層の変質が対流雲の発達におよぼす影響
151. 山岸米二郎(気象庁・電計):数值モデルによる日本海の気団変質のシュミレーション

第2会場 大気大循環 座長 荒井 康

244. 大井正一(埼玉大):成層圏天気図の解析(31)2月の寒暖冬
245. 広瀬元孝・本多君子(気研):北半球500MB高度場の気候予測
246. 荒井 康(気象庁・長期):対流圏下層の準定常波とtransient波
247. 戸松喜一(気研・予報):定常波・非定常波のエネルギー解析
248. 富岡四郎(航空大):大規模な周極流と亜熱帯高気圧の消長によるジェット気流の強度およびそのコアの緯度変化について
249. 藤井盛澄(大阪電通大):中緯度に侵入した亜熱帯ジェット流の消長について
250. 千葉 長・矢島栄三(気研・予報):等圧面高度場の長周期変動

気候 座長 星 合 誠

251. 高橋浩一郎(早大):かんばつの経年変化
252. 小元敬男(大阪府大・農):気候データに含まれる都市気候の影響度の評価の試み(2)
253. 小元敬男・鱧谷 憲(大阪府大・農):六大都市の気象台の気候資料に含まれる都市気候効果の経年変化と季節変化
254. 柳野 健・久保光則(福岡管区):九州における降水量の統計的特性
255. 水越允治(三重大・教育):中部日本における大雨の気候的特性
256. 山元龍三郎(京大・理)・星合 誠(愛知学院大・教養):北半球における最近100年間の地上気温変動
257. 山元龍三郎(京大・理)・星合 誠(愛知学院大・教養):18世紀から19世紀にかけての北半球の地上気温の推移

第3会場 大気電気 座長 菊地 勝 弘

345. 岩田 晃(名大・空電研)・関川公成(東理大):小笠原父島における大気電気・ユーロゾルの観測
346. 遠藤辰雄・谷口 恭(北大・理):雷雲内のゾンデによるコロナ放電電流と降水電荷の同時測定
347. 谷口 恭・孫野長治・遠藤辰雄・穂積邦彦・増田剛(北大・理)・竹内利雄・仲野 賢(名大・空電研):冬の雷雲の電氣的構造について(その4)
348. 高杉年且(京大・防災研):寒冷前線通過に伴う雷雨の電氣的特性

応用気象 座長 元 田 雄 四 郎

349. 福田義隆(広島大・総合科学):年輪生長の歪みにみる気候環境の変化
350. 赤井清康(関東地区):暖房室温と熱源および気象
351. 奥田 稜・塚田 清(気研・台風):気候区分と日降水量再現期待値分布曲線との関係について
352. 真木太一(農技研・気象):二種の防風網が水田微気象におよぼす影響
253. 安武元徳・大橋善昭(福岡航測):暖候期における航空気象のための雷雨予報
254. 青山道夫(長崎海台):五島列島付近における波高の数值計算一野母崎波高計との比較を中心にして一
355. 元田雄四郎・坂上 務・早川誠而(九大・農):1978年の九州北部における少雨について

356. 真鍋大覚(九大・工)・志賀正信(長崎海台)・佐藤洋子(九大・工)：日量・月量・の異常視角からみた圏界面の屈折率
357. 真鍋大覚(九大・工)・志賀正信(長崎・海台)・佐藤洋子(九大・工)：屋久杉年輪に残る高麗島の

陥没地震

358. 佐藤篤司(北大・低温研)・高橋修平(北見工大)・成瀬廉二・若狭彦郎(北大・低温研)：大雪山「雪壁雪渓」における長期融雪観測と雪渓の消耗特性

大会第3日(10月26日) 13時30分～17時00分

第1会場 大気汚染 座長 千秋鋭夫

152. 小路正弘(神戸市・環境局)：六甲山の気温を用いて計算した大気安定度の誤差
153. 桜井兼市(北教大・旭川)：冬期の旭川での気温の水平・垂直分布
154. 藤田慎一・寺田信之・千秋鋭夫(電力中研)：関東地方における降水の化学組成の観測—降水の塩素過剰について—
155. 小林博和・千秋鋭夫(電力中研)：火山活動が環境におよぼす影響
156. 阿部信男・楠田 信(大分高専)：大分市における夏季の海陸風とSO₂濃度分布の関係について(その2)
157. 北岡龍海・岩間 滋・川崎 寿(片平エンジニアリング)：伊予三島地方における大気汚染質(NO_x)の海陸風による日変化—自動車排気と産業活動による排気効果の分離—
158. 新谷光三・筑紫文夫(日本気象協会・中央)：O_x濃度とNO_x濃度の季節変化
159. 岩本智之(京大・原子炉)：浮力のないときのPlume rise(II)
160. 渡辺 明(福島大)：交差点におけるNO₂の分布と拡散について
161. 吉川友章(気研・応用)：差分法モデルによる南関東のSO₂・NO_xの広域移流拡散の試算
162. 水野建樹・横山長之(公資研)・安楽岡頭(数理計画)：大気境界層中での煙の鉛直拡散幅(第三報)
163. 通地克三(電力中研)：ディーゼル内燃力発電所排煙のNO→NO₂変換に関する検討

第2会場 力学・モデル 座長 宇加治 一雄

258. 宮原三郎(九大・理)：太陽一日潮汐振動と下部熱圏平均流
259. 宮原三郎(九大・理)： $\hat{\omega}^2=f^2$ 付近における慣性重力波の性質について

260. 岸保勘三郎(東大・理)：冬期中緯度500mb面における超長波の高度Zに関する時間系列の零点について
261. 和方吉信・瓜生道也(九大・理)：微小粘性を持つ連続成層流体内の有限振幅傾圧不安定波
262. 木塚正廣・玉木克美・宇加治一雄(福岡大・理)：回転流体の運動に伴う熱輸送量の測定
263. 瓜生道也・高橋正明(九大・理)：定常な散逸惑星波に伴うオイラーとラグランジュ平均運動
264. 荒川正一(気象大)：山岳波のtrappingと固有の波長について
265. 森山 茂(日大・生産工)・岩嶋樹也(京大・理)：火星の大気大循環スペクトルモデル(VI)
266. 猪川元興(気研・予報)：有限要素法による北半球発散バロトロピックモデルのテスト
267. 増田善信(気研・予報)：計算時間を短縮する種々の時間差分スキームの比較
268. 阿部克也(福江測)：時間積分法の改善の試み

第3会場 測器・観測手法 座長 水間満郎

359. 吉留英二・青柳二郎(気研・衛星)・飯田睦次郎(気研・予報)・浅井富雄・石川浩治・三沢信彦(東大・海洋研)・名越利幸(東京学芸大)：MONEX/FGGE 観測で行ったオメガ高層風観測について
360. 吉留英二・青柳二郎(気研・衛星)：オメガ高層風観測装置の改良(V)
361. 清水 浩・笹野泰弘・杉本伸夫・松井一郎・竹内延夫・奥田典夫(国立公害研)：LAMP(Large Atmospheric Multi-Purpose)ライダーの開発
362. 松本茂昭・小林久信(埼玉大・工)： α 線吸収と伝導電流による0°C以下の露点と霜点の測定
363. 上代英一・伴野 登(気研・気象衛星)：湿度計の試作について
364. 忠鉢 繁(高層気象台)：レーウィンゾンデ観測の時間、位置の誤差についての一考察

365. 水間満郎(京大・原子炉)・陳 介臣(気象協会・関西)・光田 寧(京大・防災研): 航行中の船舶上でのパイボール観測
366. 内野 修・前田三男(九大・工)・広野求和(九大・理): XeCl ライダーによる 成層圏オゾン層の観測 (I)
367. 内藤玄一・渡部 勲・徳田正幸(国立防災センター): マイクロ波散乱計による 海上風の リモートセンシング
368. 青柳二郎(気研・衛星): デジタルレーダエコー域の分解能の設定について
369. 阿部勝宏・原田知幸・山本孝二(衛星センター): 静止気象衛星“ひまわり”の赤外放射データによる旬平均海面水温と半旬平均海面水温データの算出率
370. 原田知幸・阿部勝宏・山本孝二(衛星センター): 静止気象衛星“ひまわり”による1979年4月の紀伊半島沖の冷水塊について
371. 青柳二郎(気研・衛星): 大地クラッタの変動によって制限されるレーダ雨エコー最小強度とその改善法
372. 木村忠志(国立防災セ・雪害研): 降積雪量分布状況表示装置 (SD₃S)